

アメリカ文学・文化および批評理論を担当している生駒久美です。専門は19世紀アメリカ文学・文化ですが、時代を問わずアメリカには関心があります。2020年はアメリカの大統領選に注目していますが、小説や映画、そしてマンガが好きで、授業でそうしたことに言及することもあります。アメリカ小説を一冊お勧めするとしたら、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』(1885)でしょうか。貧乏白人の少年が、友人である黒人逃亡奴隷と旅をするお話で、何度読んでもおもしろく、考えさせられます。大学院生のときにオクラホマ州に留学し、そこでたくさんの小説や理論を読みましたが、カントリー・ミュージックにも少し興味を持つようになりました。早朝のセブン・イレブンでテイラー・スウィフトの「マイン」という曲が流れると、店員がレジを打つのをやめて、客と一緒に踊りだしたのには驚きました。留学に関心のある学生さんは気軽に声をかけてください。